

## 令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	CAD 演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：21 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	AutoCAD の基本操作、平面図の作図を学び、次年度以降に CAD 利用技術者試験の取得や CAD オペレーターとしての就職を目指す。		
目指す検定・資格	CAD 利用技術者試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	2DCAD の基本を習得し、基本的な平面図の作図を行う。 また CAD 利用技術者試験に向けての動機づけを行う。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	AutoCAD の基礎を学び平面図の作図ができる		
到 達 目 標	1.2DCAD の平面図の作図ができる		
成 績 評 価 方 法	期末試験（55%）、課題提出（40%）、出席率（5%）で評価する。		
テキスト・副読本	・デザインの学校 これからはじめる AutoCAD の本 技術評論社		

## 令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	CAD 演習 II	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：24 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	ものづくり現場においては機械製図の素養が必須であり、そのツールとして広く利用されている 2 次元 CAD の基本操作を学ぶことで、物体の形状把握や表現法を習得する。		
目指す検定・資格	2 次元 CAD 利用技術者試験基礎		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	JIS 機械製図の手法を説明しながら、簡単な機械要素の製図を通じて、物体表現の方法と 2 次元 CAD の特徴および基本的な操作法を実習によって習得する。 AutoCAD の操作方法学習。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	AutoCAD を使った工業 CAD の操作方法と図面の作成技術習得のため、教科書に沿って、基礎知識として最低限押さえておきたい技術レベルの問題を解きながら学習。		
到 達 目 標	1. 機械系 3 次元 CAD の概念と基本操作を理解する。 2. 機械製図の基本的なルールを理解する。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (55%)、課題提出 (40%)、出席率 (5%) で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト： CAD 利用技術者試験 2 次元・基礎 公式ガイドブック これからはじめる AutoCAD の本		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	Web サイト制作基礎演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：時間 / 後期：18 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r での S E (製造・流通系)としての経験を活かし、 学生が Web ページおよびサイトの作成を行っ ていく上で必要な実習指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	Web ページおよびサイトの制作手法について学ぶ。Web サイトの制作では、技術 面だけでなく、関連技術やモラルなどもしっかり理解する必要があり、Web サイト の閲覧の仕組みやWeb ページの制作に必要な注意事項についても学ぶ。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	随時初めて使用する機能や関数が出てきた場合には、問題を解かせる前に解説を行う。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	Web ページおよびサイトの制作手法について学ぶ。また、Web サイトの閲覧の仕 組みやWeb ページの制作に必要な注意事項についても学ぶ。		
到 達 目 標	HTML5 と CSS 基本から学び、レイアウトや配色などWeb デザインの基礎知識を身 につける。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつけ る。		
テキスト・副読本	30 時間でマスター Web デザイン 改訂版 (実務教育出版株式会社)		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	アルゴリズム概論 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：30 時間 / 後期：時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r での S E (製造・流通系)としての経験を活かし、 学生がシステム開発を行っていく上で必要なアル ゴリズムとデータ構造を修得できるよう講義 する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	プログラム作成時に必要なアルゴリズムについて学習を行う。プログラムの流れを考 え、定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つではない事を第一に 理解する。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着 ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事により理解度 を深める。また別の記述形式として疑似言語も学ぶ。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験 3 級の受験に必要なスキルを身につける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	グループ学習を行い、お互いに説明をし合いながら、アルゴリズムの流れ考え方を身につ ける。 確認テストを行い、苦手分野を克服していく。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つで はない事を第一に理解する。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える 能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事によ り理解度を深める。		
到 達 目 標	基礎的なアルゴリズムの流れ、考え方を身につけることを目的とする。 また、情報処理 3 級の合格を目指すことでアルゴリズムの能力を高める。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 情報処理試験合格へのパスポート アルゴリズムとデータ構造 ウイネット		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	アルゴリズム概論Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期： 時間 / 後期：18時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのS E(製造・流通系)としての経験を活かし、 学生がシステム開発を行っていく上で必要なアル ゴリズムとデータ構造を修得できるよう講義 する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	プログラム作成時に必要なアルゴリズムについて学習を行う。プログラムの流れを考え、 定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つではない事を第一に理解する。 また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎で パターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事により理解度を深める。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	サテファイ 情報処理技術者能力認定試験 3級の受験に必要なスキルを身につける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	グループ学習を行い、お互いに説明をし合いながら、アルゴリズムの流れや考え方を身に つける。 確認テストを行い、苦手分野を克服していく。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つで はない事を第一に理解する。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える 能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事によ り理解度を深める。また別の記述形式として疑似言語も学ぶ。		
到 達 目 標	基礎的なアルゴリズムの流れ、考え方を身につけることを目的とする。 また、情報処理 3級の合格を目指すことで、アルゴリズムの能力を高める。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 情報処理試験合格へのパスポート アルゴリズムとデータ構造 ウイネット		

## 令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	コンピューターシステム I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：24 時間 / 後期：26 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r での S E ・ プログラマ(製造・流通系)としての 経験を活かし、学生がシステム開発を行って いく上でのコンピュータの基礎的な知識やコンピ ュータの基礎的な計算方法を修得できるよう講 義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	本講義は、コンピュータ及び、コンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術につ いて学習する。これらの技術について理解を深めることにより、コンピュータに関す る基礎的な知識の習得を目的とする。		
目指す検定・資格	サテファイ 情報処理技術者能力認定試験 3 級の受験に必要なスキルを身につける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	講義中心で行い、基本的な IT に関する専門用語で自然にコミュニケーションができる。また急 速に進化する IT 業界において、ニュース等で最新の情報も取り入れることで、新しい知識 や技術に興味を持ち、主体的に学べる学生になって欲しい。 確認テストを行い、苦手分野を克服していく。		
そ の 他			
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータに関する基礎的な知識</li> <li>・コンピュータに関する基礎的な計算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータに関する基礎的な知識</li> <li>・コンピュータに関する基礎的な計算</li> </ul>	
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サテファイ情報処理能力認定試験 3 級。</li> <li>・コンピュータに関わる基礎知識を習得す る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サテファイ情報処理能力認定試験 3 級。</li> <li>・コンピュータに関わる基礎知識を習得す る。</li> </ul>	
成 績 評 価 方 法	前期期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、 授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつ ける。	後期期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、 授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつ ける。	
テキスト・副読本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理試験合格へのパスポート コンピュータ概論 ウイネット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理試験合格へのパスポート コンピュータ概論 ウイネット</li> </ul>	

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	コンピュータ概論	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期： 時間 / 後期：48 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのS E ・プログラマ(製造・流通系)としての 経験を活かし、学生がシステム開発を行って いく上でのコンピュータの基礎的な知識やコンピ ュータの基礎的な計算方法を修得できるよう講 義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	コンピューターシステム I でコンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術について学習した内容を、本講義で問題演習を繰り返すことにより理解を深め、サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験 3 級の受験に必要なスキルを身につける。		
目指す検定・資格	サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験問題集 3 級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	問題演習中心で行い、グループ学習でお互いに説明をし合いながら、苦手分野を克服していく。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	・ 情報処理技術者能力認定試験問題集 3 級 の問題演習		
到 達 目 標	・ サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験 3 級を取得する。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テキスト・副読本	・ 情報処理技術者能力認定試験問題集 3 級 サーティファイ		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	ビジネス文章作成技法	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間	業務経験：	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	Word による文書作成技法だけではなく、ビジネス文書の作成に向けた基本的な内容も学習する。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	キー入力などの基本操作をしっかり行い、まずはパソコンの操作に慣れさせる。以降はテキストの問題を順番にこなしていく。随時初めて使用する機能などについては、問題を解かせる前にプロジェクターを使用して前で解説を行い、意味と機能を理解させる。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	Microsoft Word に用意された文章を作成するための様々な補助機能を活用し、基本的なビジネス文書作成技術を習得することを目的としている。 加えて、キャリア実習に向けて、履歴書と自己紹介シートを書くために、自己分析をさせ、ワードを適切に使って表現させ、成果物とする。		
到 達 目 標	罫線、表、グラフィックス等を利用し、読みやすいレイアウトデザインの文書を作成することができる。 またビジネス文書などの作成もできるようになる。 自己紹介シートは、企業に自己を紹介する文章として適切なものを制作し、キャリア実習先に提出するものとする。		
成 績 評 価 方 法	提出課題（95%）、出欠席（5%）で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門(技術評論社)		



## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	ビジネス表計算技法 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期： 時間 / 後期：41 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	講義内容は、パソコンの操作方法や日本語入力の基礎から、フォルダーやファイルの操作の基本を最初に学ぶ。以降はテキストの Excel に関する操作方法や関数などをマスターする。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	キー入力などの基本操作をしっかりと行い、まずはパソコンの操作に慣れさせる。以降はテキストの問題を順番にこなしていく。随時初めて使用する機能や関数などについては、問題を解かせる前にプロジェクターを使用して前で解説を行い、意味と機能を理解させる。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本的なしくみと特徴 (計算・グラフデータベース等) を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。		
到 達 目 標	表計算ソフトの基本機能と操作方法を習得する。関数を使った簡単な表を作成し、必要に応じて並べ替えやフィルターを設定できるようにする。 サーティファイ表計算処理技能認定試験を目指す。		
成 績 評 価 方 法	課題 (95%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門(技術評論社)		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム 学科		1 年
科 目 名	プレゼンテーション技法 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 30 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	PowerPoint を使用し基本的な操作方法を理解する。また、実際のプレゼンテーションの演習を行う。プレゼンテーション全般にかかわる基礎スキルを養う。 キャリア実習事前指導の一環として、これからキャリア実習に行く企業様の情報をそれぞれのグループで調べ発表し、フィードバックを得る。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	授業では、教科書に従って、プレゼンテーションの基礎的な内容をレクチャーする。そのあとで、キャリア実習のグループごとに、学生をグループ分けし、それぞれの会社紹介について、グループで協働して計画を立てプレゼンテーションの準備をさせる。教師は、各グループからの進捗報告、相談を受け、プレゼンテーションの内容を高めるためのアドバイスを随時行っていく。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	授業では、講義をベースにしたレクチャーと、学生主体のアクティブラーニング方式にし、教師は学生からの報告と相談に基づいて適切な助言をする。プレゼンテーションの組み立て方、PowerPoint の基本操作を学ぶ。		
到 達 目 標	プレゼンテーションに関わるパワーポイントの技術的なスキルや、情報収集、情報伝達、原稿作成、発表、フィードバックをもとに修正など発表のスキルなど、基礎的なスキルを学び、人前で日本人に対して堂々と発表できることを目標とする。PowerPoint を利用し実際のプレゼンテーションを行うことができる		
成 績 評 価 方 法	プレゼンテーション(実技)95% 出欠席 5% で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門(技術評論社)		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	プログラミング基礎演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期： 時間 / 後期：18 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのS E ・プログラマ(製造・流通系)としての 経験を活かし、学生がシステム開発を行って いく上でのコンピュータの基礎的なプログラミン グ方法を修得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	Visual Basic を使い、基本的なコントロールとプロパティを理解し、 Windows アプリケーションの作成を行う。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	テキストに従い進めるが、練習問題を更に改善することや、新たな課題を出題し理解 を深める。またWEBサイトを調べ自分で解決する能力も身につける。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	Form をベースとした Windows アプリケーションの作成方法について、使い方と文法 を中心に学習する。また、教師から実習課題を出題する。		
到 達 目 標	制御文をマスターする。 複数 Form を利用した Windows アプリケーションの作成ができる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (70%)、確認テスト (20%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ゼロからわかる Visual Basic 超入門 [改訂 2 版] かんたん IT 基礎講座 (技術評論社)		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	基礎英語	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：時間 / 後期：18 時間	実務経験：米国大学卒業後、英会話教室にて幼児～高校生までに英会話を教えていた経験を活かし、学生が、IT 関連企業において IT エンジニアとして発話や英語が理解できる力を身につけられるように講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	グローバル社会が進む中で、IT 関連企業において外国人エンジニアの採用が積極的に行われている。日本で日本人と一緒に勤務する上では日本語コミュニケーション力が必要であるが、海外展開をしていく上では、共通語である英語コミュニケーション力が求められる。母国語・日本語と同じように IT 企業におけるエンジニアとして英語にて対応できる基礎英語の理解を身につけることを目的としている。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	英語による外国の文化や教育観、また世界で意識されている SDGs の問題を取り上げ、学生が興味ある題材で、楽しく英語を学んでほしい。社会は急速にグローバル化し、英語で基本的なコミュニケーションが取れる必要性は今後ますます高まってくる。日常生活の中で、基礎的な英語が使えるようにしてほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活の簡単な英会話をはなす</li> <li>・ SDGs の問題について考える</li> </ul>		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活の簡単な英会話が理解できる</li> <li>・ SDGs について理解する</li> </ul>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、出欠席(5%)で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CNN Short News for Listening SDGs 朝日出版社</li> </ul>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	日本語能力試験 I (N1)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N1) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N1)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N1 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN1 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。</p> <p>細やかな日本語のニュアンス、相手が伝えようとしている本質的な部分の理解をすることができる。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「はじめての日本語能力試験 N1 合格模試」3回分 アスク出版</p> <p>「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」</p>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	日本語能力試験 I (N2)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N2) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N2)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N2 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験でも JLPTN2 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 日本企業で働くために必要な日本語力を身に付ける。		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「はじめての日本語能力試験 N2 合格模試」3回分 アスク出版</p> <p>「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」</p>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	日本語能力試験 I (N3)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N3) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N3)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N3 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN3 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。</p> <p>日本で就職するために確実に自己の日本語能力を証明できるものをもつ。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	<p>「はじめての日本語能力試験 N3 合格模試」3回分 アスク出版</p> <p>「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」</p>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅱ (N1)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N1) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N1)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N1 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN1 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	後 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	「はじめての日本語能力試験 N1 合格模試」3回分 アスク出版 「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」		



## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅱ (N2)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N2) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N2)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N2 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN2 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	後 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 日本企業で働くために必要な日本語力を身に付ける。		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 課題 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	「はじめての日本語能力試験 N1 合格模試」3回分 アスク出版 「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	日本語能力試験 I (N3)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N3) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	JLPT 日本語能力試験 (N3)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N3 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN3 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	後 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。</p> <p>日本で就職するために確実に自己の日本語能力を証明できるものをもつ。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「はじめての日本語能力試験 N3 合格模試」3回分 アスク出版</p> <p>「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」</p>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	言語基礎 I A	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子 高橋 真実
時 間 数	前期：88 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本で就職するために必要となる日本語能力試験 JLPTN2 を取得するために必要な N2 の内容や範囲の学習を行う。 主に言語知識の語彙・文法の内容を行う。 高橋：語彙・文法 小野：語彙（漢字）		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 N2 レベル		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本語能力試験 N2 レベル相当の漢字・語彙・文法を習得する。 日本人と同等に就職するため、日本人高校卒業程度の漢字を身に付ける。		
そ の 他	試験は語彙・文法一体で行う。		
	前 期		
授 業 の 概 要	JLPTN2 の範囲に徹底した内容のテキストに沿って語彙・文法の授業を行う。 毎日漢字 20 問のプリントを行い、語彙数を増やし、漢字能力の定着を計る。		
到 達 目 標	JLPTN2 の合格。 N2 レベルの基礎的な語彙・漢字を理解し、日常生活や学生生活の場面において、より複雑な内容が読み、話せるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45% 単元別テスト・提出物 50% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト： 「日本語能力試験問題集 N2 語彙スピードマスター」J リサーチ出版 「TRY！日本能力試験 N2 文法から伸ばす日本語」（アスク出版） 「JLPT N2 日本語能力試験 この 1 冊で合格する」日本語の森 「どんどんつながる漢字練習帳 中級」アルク出版		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	言語基礎 IB	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子 岡崎 良美
時 間 数	前期：75時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験 N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」のうち「読む」力を錬成する。短文・中文・長文の基本練習により内容理解力を養う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 N2		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>さまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行うと同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くアウトプットを通して、日本語力の定着を図る。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。</p> <p>また、どんな文章においても、まずは筆者が読者に何を伝えようとしているのか、その文章を書いた意図をとらえながら、深読みしていくことをすすめる。文章の「テーマ」と「筆者の言いたいこと」をグループワークを通してまとめていく。</p>		
そ の 他	前 期		
授 業 の 概 要	テキスト内の読解部分を中心に学習。		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 JLPTN2 合格</p> <p>N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」能力のうち、読みのストラテジーを身に付ける。情報を素早く正確に読み取り、幅広いトピックに対応できる素養を身に着ける。問題に応じて、スキミングとスキミングの力を使い分ける能力を養う。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45% 単元別テスト・提出物 50% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>テキスト：</p> <p>「日本語能力試験問題集 N2 読解 スピードマスター」Jリサーチ出版</p> <p>「話す・書くにつながる！日本語読解 中級・中上級」アルク出版</p>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	言語基礎ⅡA	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子 高橋 真実
時 間 数	前期：時間 / 後期：66 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で就職するために必要となる日本語能力試験 JLPTN2 を取得するために必要な N2 の内容や範囲の学習を行う。</p> <p>主に言語知識の語彙・文法の内容を行う。</p> <p>高橋：語彙・文法 小野：語彙（漢字）</p>		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 N2 レベル		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N2 レベル相当の漢字・語彙・文法を習得する。</p> <p>日本人と同等に就職するため、日本人高校卒業程度の漢字を身に付ける。</p>		
そ の 他	試験は語彙・文法一体で行う。		
	後 期		
授 業 の 概 要	<p>JLPTN2 の範囲に徹底した内容のテキストに沿って語彙・文法の授業を行う。</p> <p>毎日漢字 20 問のプリントを行い、語彙数を増やし、漢字能力の定着を計る。</p>		
到 達 目 標	<p>JLPTN2 の合格。</p> <p>N2 レベルの基礎的な語彙・漢字を理解し、日常生活や学生生活の場面において、より複雑な内容が読み、話せるようになる。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45% 単元別テスト・提出物 50% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>テキスト：</p> <p>「日本語能力試験問題集 N2 語彙スピードマスター」J リサーチ出版</p> <p>「TRY！日本能力試験 N2 文法から伸ばす日本語」（アスク出版）</p> <p>「JLPT N2 日本語能力試験 この1冊で合格する」日本語の森</p> <p>「どんどんつながる漢字練習帳 中級」アルク出版</p>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	言語基礎ⅡB	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子 岡崎 良美
時 間 数	前期：時間 / 後期：51 時間	実務経験：	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	「言語基礎ⅠB」にて錬成した日本語能力試験 N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」のうち「読む」力を用いて、より実践的な長文に対応できる読解力を養う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 N2		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>さまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行うと同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くアウトプットを通して、日本語力の定着を図る。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。</p> <p>また、どんな文章においても、まずは筆者が読者に何を伝えようとしているのか、その文章を書いた意図をとらえながら、深読みしていくことをすすめる。文章の「テーマ」と「筆者の言いたいこと」をグループワークを通してまとめていく。</p>		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	テキスト内の読解部分を中心に学習。		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 JLPTN2 合格</p> <p>N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」能力のうち、読みのストラテジーを身に付ける。情報を素早く正確に読み取り、幅広いトピックに対応できる素養を身に着ける。問題に応じて、スキミングとスキミングの力を使い分ける能力を養う。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45% 単元別テスト・提出物 50% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>テキスト：</p> <p>「日本語能力試験問題集 N2 読解 スピードマスター」Jリサーチ出版</p> <p>「話す・書くにつながる！日本語読解 中級・中上級」アルク出版</p>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		1 年
科 目 名	通訳 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期： 45 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本の社会で求められる文章は、共有認識がほとんどない相手に対して、自分の意見・考えを、理解・納得・共感してもらうことを求められる。プライベートで使う LINE やツイッター、メールとは、作成する相手と目的が異なるため、書き方を変える必要がある。日本人と同じように自身の意見を相手に理解しやすい形で伝えられる書き方、伝え方ができるようになる。		
目指す検定・資格	文章読解・作成能力検定 4 級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	学生が『文章カステップ』の問題を解き、教師がそれについて解説をするという形式で進める。新しい章や、新しい内容に入るときには、教師から学習のねらいやポイントは説明する。学生にとって主体的に学べるように新しい単語は自ら学び、グループ活動で問題解決ができるように教師はサポートしていく。		
そ の 他	日本語能力試験を受ける前段階で読解力を身に着けさせ、日本の社会で働く時に必要な文章力と会話を身につけるための授業である。		
	前 期		
授 業 の 概 要	後期に行われるキャリア実習での日誌や日本の社会において、社会人としてきちんとした文章が書け、話せるようにする。 また、文章のアウトプットとして学内新聞の発行ができるよう準備する。		
到 達 目 標	文章読解・作成能力検定 4 級 学内新聞の発行（9 月～10 月）準備		
成 績 評 価 方 法	期末試験 95%（文章検定 4 級問題）、出欠状況 5%で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎から学べる！文章カステップ文章検 4 級対応</li> <li>・ 7 日でチャレンジ 文章作成ワーク</li> <li>・ 文章検公式テキスト 4 級</li> </ul> <p style="text-align: right;">公益財団法人 日本漢字能力検定協会</p>		

## 令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		1年
科 目 名	通訳Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：時間 / 後期：18時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本社会で求められる文章は、共有認識がほとんどない相手に対して、自分の意見・考えを、理解・納得・共感してもらうことを求められる。プライベートで使う LINE やツイッター、メールとは、作成する相手と目的が異なるため、書き方を変える必要がある。自身の意見を相手に理解しやすい形で伝えられる書き方、伝え方ができるようになる。		
目指す検定・資格	文章読解・作成能力検定4級（11月受験予定）		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	学生が『文章カステップ』の問題を解き、教師がそれについて解説をするという形式で進める。新しい章や、新しい内容に入るときには、教師から学習のねらいやポイントは説明する。学生にとって主体的に学べるように新しい単語は自ら学び、グループ活動で問題解決ができるように教師はサポートしていく。		
そ の 他	留学生の総合的な日本語力を高めるために、本年度よりアウトプットが明確になるよう学内新聞の発行を行う。		
	後 期		
授 業 の 概 要	後期に行われるキャリア実習での日誌や日本の社会において、社会人としてきちんとした文章が書け、話せるようにする。		
到 達 目 標	日本語能力試験N2の読解力の下地となる日本語力を身につける。 文章読解・作成能力検定4級を取得する。 学内新聞の発行（9月～10月）		
成 績 評 価 方 法	期末試験 95%（文章検定4級問題）、出欠状況 5%で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト：基礎から学べる！文章カステップ文章検4級対応 文章検公式テキスト4級  公益財団法人 日本漢字能力検定協会		